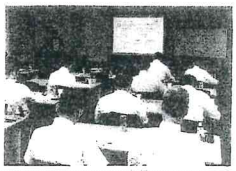
NEWS INDEX



◀共立インシュアランス・ブローカーズ　(7面)
第1回KIBJリスク マネジメントセミナー

■19年度第1四半期 損保6社種目別保険料・保険金 (2面)
■少額短期保険 最新動向① ビバビーダメディカルライフ (3面)
■スイス損害保険 日本の企業保険市場でレポート発行 (10面)

保険毎日新聞
日刊 (但土曜 日曜 祝日休刊)
定価1カ月4,115円 (送料+税込み)
発行所
保険毎日新聞社
東京都千代田区岩本町1丁目4番7号
〒101-0032
電話 03(3865)1401(代表)
振替 00140－6－70860
©保険毎日新聞社

少額短期保険 最新動向 1

少額短期保険会社の数は2019年3月末時点で101社となり、収入保険料も1000億円を超えている。提供する保険の数では家財保険が48社と多いが、「企業グループ内の1社として保険を提供」「代理店ではなく提携するビジネスパートナー店が商品を紹介」「ネット契約と親和性の高い家財保険からスタートして商品ラインアップ拡充を展望」するなどの独自性が見られる。また、当初から高いオリジナリティを打ち出す会社も数多い(外国人専用、消費者のアイデアを商品化、既存住宅設備に着目、スマホやインシュアテックを活用、保険会社グループの1社として貢献など)。少額短期保険複数社の特徴や最新の状況を取材した。

ビバビーダメディカルライフ
在日外国人に保障を提供
ローコストインシュアランスを打ち出す

ビバビーダメディカルライフ(神奈川県大和市)は、1998年創設の「在日外国人就労者共済会」を前身として、2009年に少額短期保険業をスタートさせ、在日外国人の状況に合わせた保険を提供してきた。当初から提供しているのは、「外国人向け医療・生命保険(短期プラン・1年間プラン)」(以下、医療・生命保険)で、その後、「外国人留学生向け総合保険」(以下、留学生向け保険)、「外国人技能実習生向け保険」(以下、技能実習生向け保険)を順次開発し、契約は年々拡大している。同社では、ローコストインシュアランス(LCI)を打ち出しており、16年4月には、「LCI家財総合保険」「LCI日本人向け生命保険」を発売し、19年4月には「特定技能1号外国人向け保険」の販売も開始した。

主な保険商品

同社の18年度末の保有契約割合は、「医療・生命保険」「留学生向け保険」「技能実習生向け保険」が、ほぼ1対1対1。

また、18年度の主な新契約実績は、医療・生命保険が2842件・4473万円、留学生向け保険が1万916件・4864万円、技能実習生向け保険が1万865件・3126万円となっている。

野口重雄社長は、「日本には公的な医療保険制度(国民健康保険や協会けんぽなど)があるが、日本に滞在中の多くの外国人はそれらの制度に加入していない。主な要因は、経済的な負担が大きいことや、国や生活環境によって保険に対する意識や理解の違いがあること。そのため、さまざまな外国人のセーフティーネットとして『医療・生命保険』を提供している」と話す。同保険には、観光や研修に適した16日間までの短期滞在プランから長期滞在者向けの幅広い1年間プラン(シンプルな生命保険プラン、生命保障+救援者費用プラン、医療保障+生命保障プラン、医療保障+生命保障+救援者費用保障プラン、国保・社保加入者向けプラン)がある。

「留学生向け保険」にも、1カ月から1年間までの多数のプランがあり、「技能実習生向け保険」では講習期間や実習期間に合わせた複数のプランを提供している。

「外国人留学生向け総合保険」パンフレット

「外国人技能実習生向け保険」パンフレット

家財保険や日本人向け生命保険

同社では、ニーズを反映させて、家財保険や日本人向け生命保険の提供を16年度に開始した。家財保険は、50万～600万円の保険金額から選ぶことができ、例えば、借家人賠償責任保険金額500万円・個人賠償責任保険金額500万円に家財保険金額50万円の補償で1年間2400円、2年間3500円で提供している。外国人・技能実習生による加入も増えており、18年度は344件の加入があった。技能実習生については、監理団体がアパートの手配もしていることから、そうした団体がコスト面も考えて同社に問い合わせてくることが多いという。

また、日本人向けの生命保険については、加入推進はこれからだが、日本人向けにも最大限低い保険料で保障を提供したいという考えの下、同保険を開発したという。同社では、「広告費、印刷費、人件費等の保険を運営するためのコスト(付加保険料)の削減を図り、リーズナブルな保険料を実現できた」としており、1年間の保険料例は、傷害死亡・疾病死亡100万円コースで24歳女性の場合860円、同男性の場合1240円。300万円コースでは、同じく2580円と3720円。500万円コースでは、同じく4300円と6200円。

最新の保障と今後の展望

同社では、今年4月にスタートした新制度に合わせて「特定技能1号外国人向け保険」をいち早く開発し、4月1日に提供を開始した。1号外国人の認定を受けて国内で働き始めた外国人は、まだ数十人だが、同保険へは複数の契約が出ている。

保険の内容は、死亡等(傷害死亡・特定重度障害、疾病死亡)の保険金額600万円、同500万円、同300万円の3タイプを用意しており、救援者費用は200万円。自転車事故などにも対応する個人賠償責任保険1億円も追加プランとして用意している(同追加プランは損保が対応)。保険料は保険期間4カ月で1500円から。6カ月、12カ月、60カ月のプランも提供する。

野口社長は、「当社は、約20年前に共済としてスタートした。当時、日本に滞在する外国人は南米の日系人が主体で、無保険者も多かった。その後、徐々に外国人が増え、主な出身国も中国、ベトナムなどへと変化している。そうした状況に合わせて保険も進化させており、新保険も開発してきた。家財保険はシンプルな補償に絞り込んでいるのが特徴で、日本人向けの生命保険は保険料の安さを追求した。また、特定技能1号外国人の雇用については、企業の手探り状態が続いているようでまだ人数が少ないが、すでに関心を寄せていただいている」と話し、今後もニーズに合わせた保険の提供を進めていきたい考えだ。